

令和5年度 第2回伊勢市スポーツ推進審議会 会議録（概要）

1 日 時 令和6年3月1日（金） 19：00～20：45

2 場 所 小俣総合支所3階 大研修室

3 出席者 会 長 叶 俊文（学識経験者）
副会長 龍田 洋（伊勢市スポーツ協会）
委 員 川口 京子（伊勢市スポーツ推進委員連絡協議会）
山端 正人（伊勢市スポーツ少年団）
奥田 守（伊勢市レクリエーション協会）
正木 靖宏（伊勢市小学校体育部会）
野村 知広（伊勢市中学校体育連盟）
林 雅哉（伊勢市PTA連合会）
橋本 さち子（総合型地域スポーツクラブ）
平沼 美智子（健康づくり・スポーツ女性指導者）
立花 和子（健康づくり・スポーツ女性指導者）
豊島 久雄（学識経験者）
事務局（伊勢市教育委員会事務局）
東浦 久修（スポーツ課長）
東端 伸治（学校教育課副参事）
長井 正文（スポーツ課主幹兼スポーツ施設係長）
濱口 太史（スポーツ課主幹兼スポーツ振興係長）
鈴木 健太（スポーツ課施設係主事）

1 あいさつ

伊勢市教育委員会事務局 スポーツ課長

- ・皇學館大学のC L L活動と連携したインクルーシブスポーツの開催状況等について
- ・スポーツ課所管となったお伊勢さんマラソンの開催状況について
- ・コロナ5類後のスポーツ施設の利用状況について
- ・村田選手（皇學館大学野球部）のドラフト指名、宇治山田商業の選抜出場等、伊勢市出身、伊勢市ゆかりの選手・チーム等の活躍
- ・西本拳太選手（バドミントン）のオリンピックの可能性について

2 報告事項

○中学校部活動地域移行の進捗状況について【事務局（学校教育課）説明】

- ・休日の部活動を地域のスポーツ・文化団体が部活動の受け皿となる「地域移行」、学校部活動に部活動指導員等の地域の人材を活用し、複数校でまとまって一つの部活動とする合同部活動を行う「地域連携」の2通りの活動方法を進めている。
- ・資料「伊勢市における部活動のあり方について」の「2成果」について、あまり進んでいないというのが現状である。
- ・「3伊勢市における今後の方向性と取組」について、「地域移行」や「地域連携」を進めるために、スポーツ協会や総合型等に生徒の受け入れを働きかけ、また、合同部活動の導入、部活動

指導員等の地域人材の活用をさらに進めていきたいと考えている。

【質疑応答】

【委員】

連携を進めるというのが、総合型地域スポーツクラブと中学校が直接やり取りを進めるのか、間に市が入ってやってもらえるのか、総合型としては実際わからない。

【事務局】

どのように進めていくかの方針等については吟味しているところ。総合型によっても、多くの生徒を受け入れることができることもあれば、無理なところもある。こちらとしても、こうしていきましようという形が出来ていないのが現状で、6年度である程度、形はできてくると考えているので、もう少し待っていただきたい。

【委員】

以前に総合型地域スポーツクラブに対して地域移行に関するアンケートを行ったが、その結果の情報はいつ入ってくるのか。

【事務局】

総合型地域スポーツクラブに行ったアンケートの結果は、3月21日開催の意見交換会で報告する予定である。

【委員】

「2成果」に「③部活動指導員や教育支援ボランティアの活用」とあるが、ボランティアとは個人なのかスポーツ協会等の団体なのか、どのような人を選んでいるのか。

【事務局】

部活動指導員について、年度初めに指導員の不足分を学校から申請してもらうもので、教育支援ボランティアについては、学習支援と部活動の支援があり、週に何回か来てもらう。学校が必要な人材をあてている。個人で依頼している。

【委員】

「1伊勢市における部活動改革（地域移行・地域連携）の状況」にでてくる「地域クラブ活動」と、「2成果」にでてくる「地域クラブ活動」は同じものなのか。

【事務局】

同じものである。

【委員】

何をもち「成果」としているのか。伊勢市内の中学生すべてをそのクラブチームで受け入れるということなのか、ある程度の地域に区切って受け入れ先があるということなのか。

【事務局】

現状受け入れまでは進んでおらず、受け皿としての数を成果としている。伊勢市内でこのスポーツをしたい子どもたちはこの地域クラブへ、とできればそれが地域移行となるが、そこまでは進んでいない。

【委員】

どこ主体で進めていくのか。市で一つのスポーツの受け入れ先を一つとしてしまうと距離の問題で難しくなる子も出ると思うが、この地域の子はここへ、この地域はここへ、と音頭をとってく

れるのは市であるべきではないのか。

【事務局】

未だそこまで具体的な話が進められていないというのが現状だが、学校と学校教育課がかなり中心となってどういう方針で進めていくか固めていく必要があるとの認識。そこに受け皿となる地域クラブも話し合いに含めながら進めていく。

【委員】

市としては、一つのスポーツに一つの受け皿となるクラブだけが名乗りを上げるということに関してどのように考えているのか。また、指導者を学校に派遣したいのか、それとも外部のクラブに子どもたちが行くということなのか。

【事務局】

子どもたちが選べるところを増やそうという考えである。学校の外に子どもたちの居場所を作る「地域移行」と、指導者を受け入れる「地域連携」を同時に進行しており両輪を考えている。

【委員】

受け入れ側の器が整っていないこともあり、規模が大きくなってしまったら自分たちでやっていけるのが心配。今ですら200人程いるのに、子どもたちが会員になるとしたら会員の掌握に不安を感じている。子どもの意見はどうなのか。先生にずっと見てもらいたいという意見は無いのか。

【事務局】

さまざまな意見があると思う。トップを目指すような子がいけるチーム、平日だけ軽く運動したい子がいけるチームなど子どもの居場所をたくさん作ってあげることが大切である。

【委員】

「地域クラブ活動」であれば強い人達に交じって活動し、「地域連携」では素人の人達にクラブ活動を見守ってもらう分け方という認識でよいか。

【事務局】

そこまではっきりと分けられるものではない。強いチームを作っていくか、運動習慣をつけるチームを作っていくのかは、今後の課題となってくる。強くなりたいチームが出てくるのは仕方がないこと。総合型地域スポーツクラブは、運営は強いが指導者不足が課題で、スポーツ協会は指導者が潤沢だが施設が不足している。そこをマッチングさせていくのが我々の仕事である。

【委員】

中学校のチームではそんなことないと思うが、チームによって試合に出られる子と出られない子がいるというのはどのように考えているのか。

【委員】

中体連の代表委員であるが、中体連のシステムとして、今までは中学校のみ登録できて試合に出られるシステムだったが、子どもたちの活動の場を地域に移行していくという意味で今年度からクラブも登録でき、クラブとして試合に出られるようになった。

子どもたちは中学校として出るのかクラブとして出るのか子どもたち自身で選ぶことが出来る。所属クラブが登録していなくても中学校として出ることができる。クラブチームが登録できてしまうので、健康づくりの意味合いで運動をしているチームとエリート集団のような強いチームと一回戦で当たってしまう可能性はある。子どもたちが何を望んでスポーツに取り組むかは多岐にわたるので難しいところである。

【委員】

平日は学校で部活をして、休日は強いクラブチームで活動することになると思うが、そういう子たちがクラブチームの方で試合に出るとなると中学校だけでスポーツをしている子はどうなってしまうのか。

【会長】

強い子たちは地域のクラブに出ていってしまうという状況はあるが、子どもたちの選択の幅が増えているということでもある。地域クラブで出たい子が増え、中学校から出場する子はどんどん少なくなっていって、いずれいなくなり、クラブチームだけが残って試合をすることになる。そして部活動がなくなる。そういう形に移行していくのが文科省のねらいである。

3 協議事項

○第3期伊勢市スポーツ推進計画の令和5年度取組結果について【事務局（スポーツ課）説明】

1. スポーツ活動の充実

- ・週一回以上のスポーツ実施について
- ・市主催のスポーツイベントの参加率について
- ・総合型地域スポーツクラブ交流会負担金の6年度廃止について
- ・伊勢市スポーツフェスティバルについて
- ・ちびっこ超人選手権について
- ・スポカルウォークについて（第1回雨天中止、第2回～第5回開催）
- ・ダンス体操フェスティバルについて
- ・インクルーシブスポーツについて
インクルーシブスポーツフェスタの開催（3回）
皇學館大学C L L活動「インクルーシブスポーツ推進プロジェクト」の活動
※広報いせ9月1日号特集記事の作成、行政放送特集番組の制作、イベントの開催等
ボッチャ交流大会の実施
- ・お伊勢さんマラソンについて
お伊勢さんチケット、物産展の復活など、コロナ前の規模に戻して開催による参加者増
エイドステーションの導入
- ・都道府県対抗全日本中学生ソフトテニス大会開催予定（3月26～28日）

2. スポーツ関係団体の連携強化

- ・総合型地域スポーツクラブについて
- ・伊勢市スポーツ推進委員連絡協議会について
- ・伊勢市スポーツ少年団について
- ・伊勢市スポーツ協会について
- ・大学等

3. スポーツ施設の利便性の向上

- ・目標設定項目
全体的な満足度は目標値に至らなかったが、主要なスポーツ施設の稼働率は目標値にほぼ達した。

- ・施設の安全な利用について
 - 4工事を実施。
 - プールはコロナ前の通常営業。
- ・施設のあり方について
 - 指定管理者制度の運営継続、新規導入
- ・伊勢市スポーツ施設長寿命化計画
 - 市民アンケート調査、スポーツ団体調査
- ・スポーツ施設の利便性について
 - キャッシュレス化を充実

【質疑応答】

【委員】

満足度に対するアンケート調査の設問は具体的にどのようなものか。

【事務局】

市民アンケートにより公共スポーツ施設とその設備に対する満足度を問うたもの。結果として昨年度より数値が上がっている。

【委員】

設備が更新されないと満足度も変わらないのでは。

【事務局】

適宜、設備保全を行い、満足度の向上を図りたい。

【委員】

現状と目標値の項目しか記載がないので、過去3年間の数値も記載してほしい。

【事務局】

ここ数年の動向が読み取れるかたちで数値を記載する。

○伊勢市スポーツ施設長寿命化計画について【事務局（スポーツ課）説明】

・計画全体の説明

策定の背景 → 施設の老朽化が進行し、大規模な改修や整備を必要とする。

→ 利用者のニーズや時代に即した性能の確保が求められる。

目的等の整理 → 中長期的な財政負担の低減及び平準化を図る。

→ 改修工事、修繕等の優先順位等を勘案した計画を策定する。

本計画の位置づけ → 上位計画：伊勢市公共施設等総合管理計画・施設類型別計画

→ 下位計画：伊勢市スポーツ施設長寿命化計画（個別計画）

・施設の現状整理 → 安全性・機能性、耐震性、経済性

→ 市民アンケート、スポーツ団体アンケート

安全性等に関する情報整理 → 劣化調査（健全度、付属施設、屋外施設、耐震性）

経済性に関する情報整理 → コロナ禍の影響で下がっていた稼働日数及び利用者数の回復

施設の現状情報に基づく個別施設の方向性に関する検討

→ 施設分類別に整備の方向性を整理

→ 環境に関する情報を収集・整理

スポーツ施設の基本方針に関する検討

個別施設計画の検討

フォローアップの実施方針

【質疑応答・意見等】

【委員】

大仏山公園スポーツセンターのナイター設備について、野球グラウンド側はあるがサッカーグラウンド側はない。今度ナイター設備を整備する予定はあるか。

【事務局】

利用者のニーズを把握するとともに、本計画をもとに整備方針を検討することになる。

【委員】

スポーツを推進していくために住んでいる場所の近くに施設があるとよいと思う。

【会長】

施設類型別計画では、小俣児童体育館、市民武道館は、「使用できる間はサービスを提供」とある。数値上では稼働率が高ので、今後も稼働させる方法を考えてほしい。

【事務局】

サンライフ伊勢がなくなったことにより、そこで活動していた団体は代替施設の問い合わせがある。別の施設を紹介しているが、高齢の方で遠距離の移動が難しい方もおり、施設閉鎖によりその方はスポーツをするのが難しくなってしまうといった課題がある。様々な場所に施設があることが週一度以上スポーツをする人の増加に繋がることもあるので、長寿命化計画はあくまで一つの指標として、色々な意見を聞きながらスポーツ推進に取り組んでまいりたい。

【委員】

廃校の小中学校など利用できる拠点があるように感じる。運動場にナイター設備をつけるなど、廃校の有効活用を模索してはどうか。

【事務局】

安全性の問題から基本的に廃校体育館の貸し出しは行っていないが、廃校運動場に関しては支障のない活動に対し貸し出しを行っている。

【委員】

自ら移動が難しい方に向けて「ぎゅーとら行こカー」のようなシステムを使って、市内を巡回してもらうことにより、施設の稼働率の上昇及びスポーツ人口の増加が期待できるのではないかと。

【事務局】

ニーズに応じて、例えば「おかげバス」のコース延長を検討してもらうなど、他の部署との連携も必要と考える。